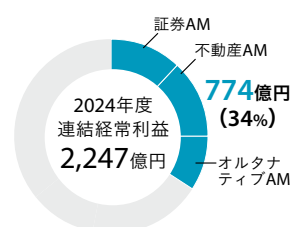


アセットマネジメント戦略

アセットマネジメント部門は、証券アセットマネジメント、不動産アセットマネジメントおよびオルタナティブアセットマネジメントで構成され、投資信託の組成と運用、不動産の運用、ベンチャーキャピタルやプライベートエクイティ、さらには太陽光発電など、幅広い資産運用を行っています。

AM部門の経常利益



主な構成会社

証券アセットマネジメント(証券AM)

- 大和アセットマネジメント
- 大和ファンド・コンサルティング

不動産アセットマネジメント(不動産AM)

- 大和リアル・エステート・アセット・マネジメント
- 大和証券オフィス投資法人
- 大和証券リアルティ
- サムティ・レジデンシャル投資法人

オルタナティブアセットマネジメント(オルタナティブAM)

- 大和企業投資
- 大和PIパートナーズ
- 大和エナジー・インフラ

大和アセットマネジメント運用資産残高	33.3兆円
不動産アセットマネジメント2社*1運用資産残高	1兆5,963億円
累計投資社数・累計投資金額*2	2,369社/4,700億円
プリンシパル投資残高*3	2,840億円

*1 大和リアル・エステート・アセット・マネジメント、サムティ・レジデンシャル投資法人

*2 大和企業投資の累積数値

*3 大和PIパートナーズと大和エナジー・インフラの合計

環境認識

- ▷ 世界の大手アセットマネジメント会社の統廃合
- ▷ 責任投資原則 (PRI) やSDGsの普及によるESG投資への関心の高まり
- ▷ 低金利による運用難と投資家ニーズの多様化
- ▷ 自助努力による資産形成の必要性の高まり

強み

- ▷ 多様化するお客様のニーズに応える商品開発力
- ▷ グループ内外の販売網を活用したマーケティング力およびサポート体制
- ▷ 国内トップクラスの投資信託純資産残高
- ▷ 長年の経験と実績を有する調査・運用体制

事業リスク

- ▷ 証券AM：運用資産残高減少による収益減リスク、収益低下が著しい場合の採算割れリスク
- ▷ 不動産AM：不動産市場の変動リスク、人件費や不動産関係費などの費用上昇リスク
- ▷ オルタナティブAM：投資先の経営状況や経済環境などの変化により、保有する有価証券などの売却損・評価損が発生するリスク



田代 桂子
アセットマネジメント
担当

アセットマネジメント部門は、伝統的資産に加え、オルタナティブ資産を含む多様な運用商品・サービスの提供を通じて、日本政府が掲げる資産運用立国実現に向けた中核的役割を担っています。また、本部門に属する証券アセットマネジメントおよび不動産アセットマネジメントは、ウェルスマネジメント部門とともにベース利益を構成しており、当社グループの安定収益基盤の柱です。

本部門は、2024年度において、運用資産残高の着実な拡大とキャピタル・リサイクリング推進により、全ビジネスラインで増益を実現しました。さらに、戦略面では、かんぽ生命と大和証券グループ本社および大和アセットマネジメントとの資本業務提携をはじめ、積極的にインオーガニック戦略を推進しました。

今後もオーガニック・インオーガニックの両戦略を実行し、2030年度の運用資産残高60兆円超という目標達成に向け、運用力の向上、顧客基盤拡大およびビジネスモデル変革に取り組んでいきます。

アセットマネジメント戦略（証券アセットマネジメント）

かんぽ生命との資本業務提携

証券アセットマネジメントでは、特色ある商品ラインナップの提供による資金流入を背景に、2025年3月末時点の運用資産残高が33兆円と着実に拡大しています。公募投信分野では、オルタナティブ商品などの付加価値が高く差別化された商品の拡充を進めるとともに、販売会社向けサービスの強化にも取り組んでいます。

大和アセットマネジメント(大和AM)は、2024年5月にかんぽ生命と資産運用分野における資本業務提携を発表し、同年10月には、かんぽ生命が同社の20%株主となりました。国内最大級のアセットオーナーであるかんぽ生命との協業により、大和AMは、オルタナティブ分野を含む投資顧問ビジネス領域への本格参入や、資産運用人材の相互交流を通じて、アセットオーナー目線を付加した運用力改革および運用機能の向上を目指しています。

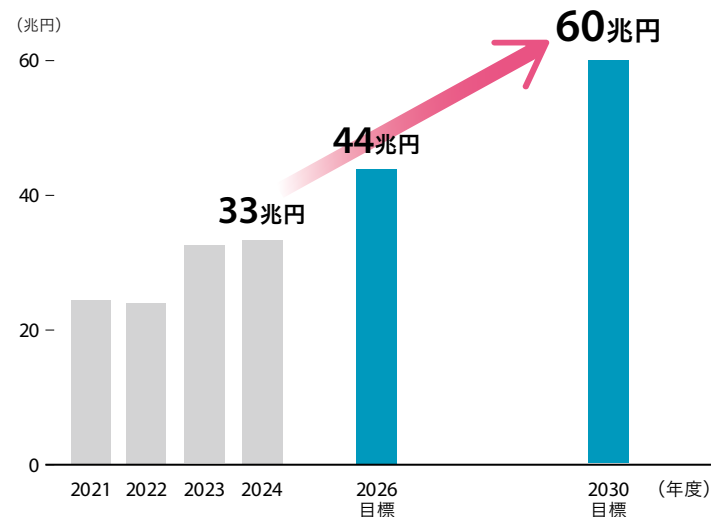
本提携により大和AMは、かんぽ生命からすでに2兆円を超える資産を受託しています。また、政府の後押しもある新興運用会社促進プログラム(EMP)を共同で取り組み、

第1号案件への投資を完了しました。EMPを通じて運用力の高い新興運用会社の発掘および円滑な資金供給を促進し、新興運用会社を積極的に活用する機運を高めていくことで、資産運用立国の実現に貢献します。

かんぽ生命および三井物産との資本業務提携

2025年3月には、かんぽ生命および三井物産と資本業務提携契約を締結し、三井物産オルタナティブインベストメンツの子会社化を発表しました。これにより大和AMは、オルタナティブ資産運用の領域を広げ、公募・私募投信の開発や人材交流による専門人材の育成を進めるほか、かんぽ生命、三井物産、そして当社グループが持つそれぞれの強みを活かして事業の拡大を目指します。

証券AMの運用資産総額の推移



かんぽ生命との資産運用分野における資本業務提携

投資顧問への本格参入

- かんぽ生命より**2兆円**を超える規模で運用受託
- 投資顧問ビジネス本格始動に向け組織整備

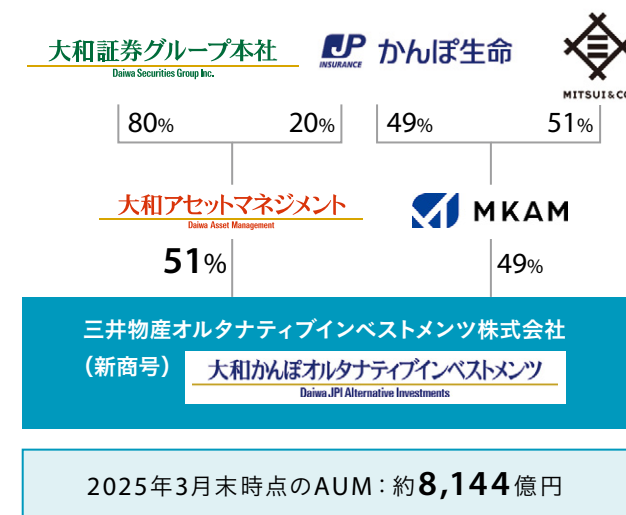
運用の高度化

- 積極的な相互人材交流
- NY現法でクレジット運用体制を立ち上げ、運用開始

EMP (新興運用会社 促進プログラム)

- 今後5年間で500億円を目標に運用受託
- 2025年3月21日に第1号案件への投資を開始

オルタナティブ資産運用分野における資本業務提携



アセットマネジメント戦略（不動産アセットマネジメント）

REITと私募ファンドで運用残高を拡大

不動産アセットマネジメントは、2009年の参入以降、運用対象資産の拡大に加え、運用会社やREITの合併、ウェアハウジング機能の強化などを通じて着実に成長し、当社グループの安定的な利益獲得に貢献してきました。2019年には不動産デベロッパーであるサムティホールディングスと資本業務提携を締結し、両社の連携を通じてビジネスの拡大・強化を図っています。

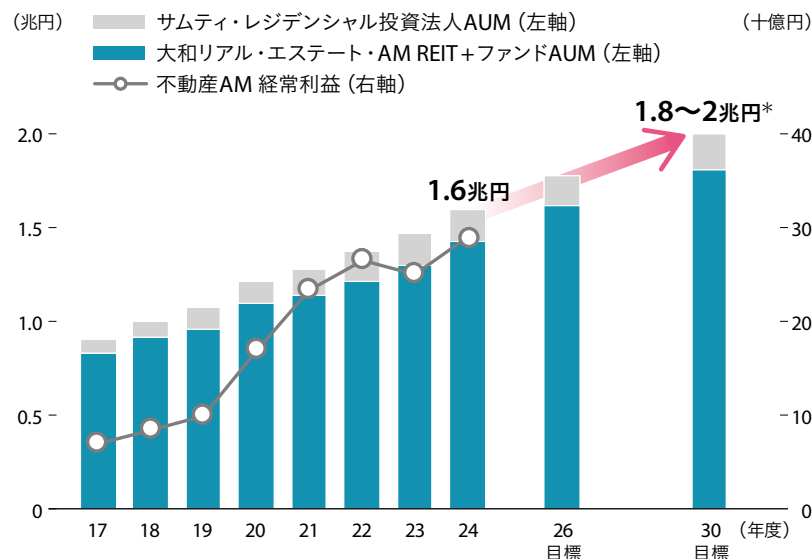
また、不動産会社は所有物件を売却する際、競合する同業他社との取引や相談を避ける傾向にあるため、不動産業界における独立系プレイヤーである当社グループには全方位から案件が持ち込まれます。当社グループでは、高い信用力を活用したウェア

ハウジング機能や、迅速かつ柔軟な意思決定を強みとして成約率を高め、着実に物件取得を進めています。

運用資産残高は、2025年3月末時点で約1.6兆円まで拡大し、グループ全体のストック収益拡充にも寄与しています。運用資産は、インフレ耐性に優れた賃貸住宅と中規模オフィスを中心に構成している点が特徴であり、当社グループのREITが運用する賃貸住宅とオフィスの賃料は着実に上昇しています。そのほかのREITも、高い稼働率と収益の安定性を維持しています。

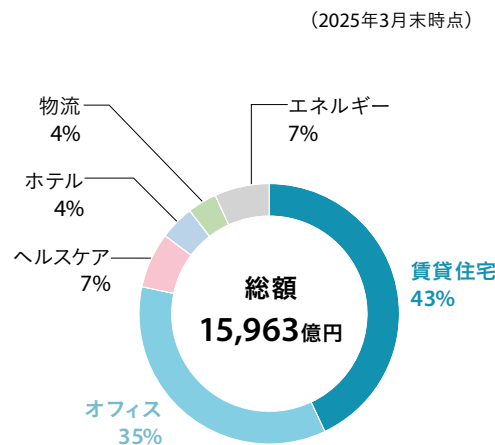
2025年3月には、大和リアル・エステート・アセット・マネジメントが大型私募ファンドの運用を新たに受託しました。今後もREITおよび私募ファンドの双方から、継続的に資産運用残高の拡大を目指します。

不動産AM AUM/経常利益



* 1.8兆円を上回るAUM達成には良好な取得環境、REITのM&A、投下資金（枠）などの条件が満たされる必要がある

不動産AM アセットタイプ比率



不動産関連商品ラインナップの多様化



* 大和証券リアルティが運用

アセットマネジメント戦略（オルタナティブアセットマネジメント）

自己資金投資からアセットマネジメントへ

オルタナティブアセットマネジメントでは、これまでの自己資金を活用した投資ビジネスから外部資金を活用したアセットマネジメントビジネスへの移行を進めています。大和企業投資はベンチャーキャピタルの老舗として、40年にわたりファンド運営の実績を積み上げてきました。これまで主に自己資金での投資ビジネスを展開してきた大和PIパートナーズ、さらに大和エナジー・インフラが、それぞれ長年培った投資ノウハウやトラックレコードを活かし、外部の投資家から調達した資金を活用したファンドビジネスに取り組む方針です。

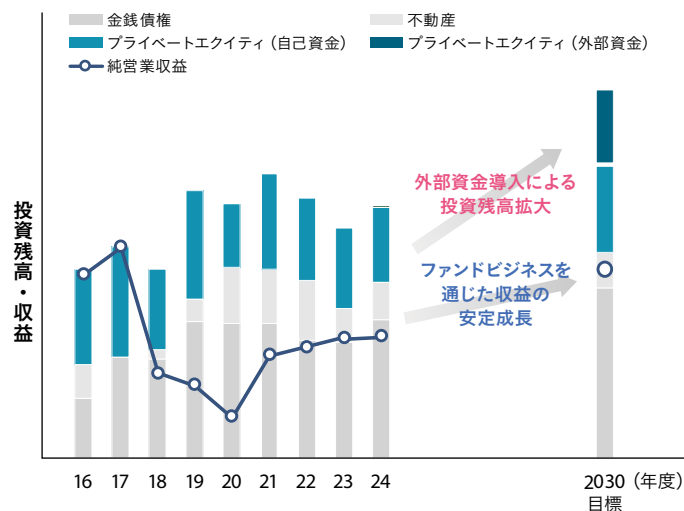
大和PIパートナーズでは、2024年11月に、100%子会社である大和PIキャピタルが管理・運営するプライベート・エクイティファンド「大和PIC事業支援1号投資事業有限

責任組合」において、総額260億円の組成を実現しました。本ファンドでは、すでに新規投資を実行していますが、既存投資先企業の価値向上に注力するとともに、新規投資案件の発掘にも取り組んでいきます。

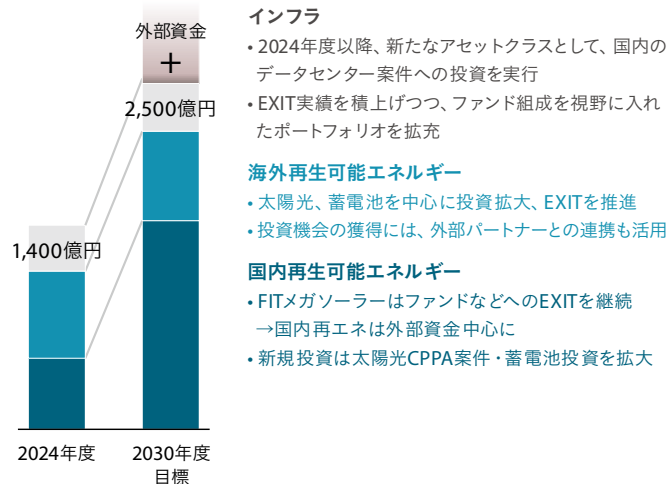
また、大和エナジー・インフラにおいては、2019年に取得した英国で配電事業を行う Electricity North West Limitedの株式の一部を、2024年8月にスペインのエネルギー企業である Iberdrola S.A.に売却してキャピタルゲインを得て、当社グループの利益に大きく貢献しました。

これまでに築いた投資ノウハウや実績、国内外のパートナーとのネットワークを活かし、今後も良質な案件への投資実行と最適なエグジットを進めることで、高いトラックレコードを構築し、アセットマネジメントビジネスへとつなげていきます。

大和PIパートナーズにおけるファンドビジネスへのシフト



大和エナジー・インフラ (DEI)



大和PIC事業支援1号ファンドの出資先



カプセル自販機、
アミューズメント機器
の設置運営



広島ロードサイド、
ショッピングモールを
中心に展開するラーメン
チェーン

英国配電事業の協働体制

今後は、新株主である Iberdrola S.A.と協働し、
ENW 社の経営に参画

